

(第3種郵便物認可)

# 復核

### 福島県内の特定復興再生拠点区域



	準備宿泊	避難指示解除
1 飯舘村	未定	2023年春
2 浪江町	2022年秋	23年3月
3 葛尾村	11月30日開始	22年春
4 双葉町	22年1月20日	22年6月
5 大熊町	12月3日開始	22年春
6 富岡町	22年春	23年春



福島県大熊町の特定復興再生拠点区域 町面積の約1割に当たる860戸で、区域内に住民登録しているのは約2200世帯6000人。帰還困難区域の中で優先的に除染を進める区域として、政府が2017年11月に認定。今年9月末時点の除染進捗(しんちよく)率は約89%で、解体申請があった家屋約1400棟のうち、10月末時点で1183棟が解体された。

避難から十年以上たち、町にとってもどれほどの人が定住するかは未知数で、西銘恒三郎復興相も記者会見で「住みただけでは定住人口は戻りにくい。生業がなければ難しいと感じている」と発言。支援に取り組み考えを示したが、廃炉関連以外の企業誘致などが進むかは不透明だ。

# 首相「桜を見る会しない」

## 雇調金受給 大岡副大臣は続投

岸田文雄首相は十四日の衆院予算委員会で、安倍晋三元首相による行政私物化疑惑が指摘された「桜を見る会」について「私の内閣では開催しない」と表明した。与党が参加者を推薦する慣行を見直す意向を示したが、自民党政調会長時代の参加者推薦について「記憶がない」と述べるにとどめた。立憲民主党の岡田克也元外相への答弁。

論戦のポイント⑨面  
首相は、第二次安倍政権時に招待基準が曖昧なまま

参加者が急増したことについて「大いに反省すべき点があり、二度と起こしてはならない。自民党でも党改革の議論を進め、信頼を回復したい」と強調した。

桜を見る会の参加者は二〇一三年の約一万一千七百人から、一九年に約一万八千二百人に増加。費用も倍増した。批判を受け、二〇二一年は中止になった。岡田氏は「シロアリが食いつぶすように、国民の税金を自分たちの政治活動に使っている」と指摘し

新型コロナウイルス対策として安倍政権が全戸配布した「アベノマスク」など布マスク約八千万枚が未使用のまま倉庫に保管されている問題で、首相は「反省すべき点があった」と釈明。「有効活用之道を探りたい」としたが、具体的な在庫解消策は示さなかった。

大岡敏孝環境副大臣が代表を務める政党支部が、新型コロナウイルス対策の雇用調整助成金を受給していた問題は「引き続き国民の信頼、共感のもとに仕事してもらいたい」と述べ、続投させる考えを示した。いずれも立民の逢坂誠二代表代行への答弁。(木谷孝洋)

奥野氏は日本維新の会や国民民主党が主張する憲法審の毎週開催について「差し支えない限り出て行きたい」とも述べた。立民の泉健太代表も改憲前提の議論は否定しつつ、憲法論議には応じる考えを表明している。

憲法論議を巡っては、先の衆院選で議席を三倍以上に増やした維新が、立民や共産党に対し「憲法審開催を妨害してきた」と批判。国民民主党も議論加速に理解を示すなど、野党内でも議論促進を求める声が強まっていた。(井上峻輔)

# 衆院憲法審あす開催

## 予算案審議中 立・共・社が受諾

立憲民主、共産、社民の野党三党は十四日、与党側が提案していた十六日の衆院憲法審査会の開催に応じる方針で一致した。立民の奥野総一郎・憲法審野党筆頭幹事が記者団に明らかに

した。開催されれば衆院での実質審議は五月六日以来で、十月の衆院選後は初めて。予算案審議中に憲法審が開催されるのは珍しく、今後の国会で憲法論議が加速する可能性がある。

十六日は参院予算委員会が予定されており、野党内には憲法審開催に慎重論があった。奥野氏は開催に応じる理由を「短期の臨時国会だから一回開いて議論に

応じるべきだ」という判断

# 防衛省の辺野古建設推進部署

国土交通省が辺野古建設を推進する部署を設けた

